

平成31年度

事業報告書

社会福祉法人 苅田町社会福祉協議会

■はじめに

地域包括支援体制づくりが社会福祉法に位置付けられ、今まで以上に「地域力の強化」を図る事が社会福祉協議会に期待されています。本会では、「あらゆる生活課題への対応」・「地域のつながりの再構築」の強化を目指し取り組みを広げました。

総務係では、社協基盤強化方針を策定しました。また、つながり隊（協議体）の設置を小学校区ごとに働きかけ、小学校区ごとに出来たつながり隊の運営支援を行いました。地域共生社会の実現や住民主体の形成を目指し、福祉教育の推進にも注力しました。

あんしんセンター係では、地域支援検討会議を毎月開催し、社協における総合相談体制の構築に向け検討を重ねました。年度末には、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、休業や失業により生活資金でお困りの方に向け、緊急小口資金等の特例貸付けを実施しました。

ケアプランサービスでは、ケアマネジャーを1名増員し高まる利用ニーズに応えられるようになりました。また、特定事業所として町内他事業所主任介護支援専門員と連携を図りながら、地域全体の介護サービスの質の向上を図れるよう取り組みました。

多機能型事業所くすの木作業所では、安定した施設経営を図る為にレストラン事業を収益事業に移行することにしました。今後はレストランへの夢の木への施設外就労という形で就労支援をしていきたいと思えます。LAPANの菓子製造販売は売り上げを伸ばしました。

在処よってけばあでは、利用者数が大幅に伸びました。地域との連携も積極的に図り、認知症の啓発に努めました。

■目次

I 総務係（総務担当）事業報告

(1) 理事会・評議員会	1
(2) 委員会活動	2
(3) 社協基盤強化方針の策定	3
(4) 社協会員の拡大について	3
(5) 赤い羽根共同募金運動の推進	4
(6) 社会福祉大会の開催	4
(7) 配食サービス	5
(8) SOS徘徊ネットワーク活動の推進	5
(9) 社協だより手をつなごうの発行	5

II 総務係（地域福祉担当）事業報告

(1) 小地域福祉活動の推進	6
(2) 一人暮らし高齢者等見守りネットワーク活動の推進	7
(3) 居場所づくりと買い物支援の取り組みの推進	8
(4) 地域福祉活動計画 地区福祉計画の推進	10
(5) 生活支援体制整備事業	11
(6) 福祉教育の推進	13
(7) 福祉教育推進校活動の推進	14
(8) ボランティアセンター活動の推進	16
(9) 高齢者・障害者の閉じこもり防止	18
(10) ハンディキャブ貸出事業	18
(11) 子育て支援	18
(12) 介護家族支援元気回復事業「元気回復サロン」の実施	19
(13) 有償サービスの仕組みと居場所づくりの研究と実施	19
(14) 障がい者団体連絡会の活動支援	20
(15) 福祉団体の活動支援	20

III あんしんセンター係 事業報告

(1) 日常生活自立支援事業の充実	2 1
(2) 成年後見制度の利用支援	2 1
(3) エンディングプラン事業	2 2
(4) 障害者相談支援事業の充実	2 3
(5) 福祉に関する相談窓口の充実	2 3
(6) 生活福祉資金の貸付（県社協委託業務）	2 3
(7) 生活困窮者への支援	2 4
(8) 社会福祉法人連絡会	2 4

IV ケアプランサービス 事業報告

(1) 多職種・各関係機関との連携の強化	2 6
(2) 地域への広報活動・介護保険の理解促進	2 6
(3) 特定事業所加算算定事業所としての役割の遂行	2 6

V 多機能型事業所くすの木作業所 事業報告

(1) 利用者の状況	2 7
(2) 施設経営	2 7
(3) 生産活動 菓子製造販売事業	2 7
(4) 生産活動 レストラン事業	2 8
(5) 職員の人材育成・資質の向上の取り組み	2 8

VI 認知症対応型通所介護 在処よってけばあ 事業報告

(1) 利用状況報告	2 9
------------	-----

I 総務係（総務担当）事業報告

組織基盤の強化を図るため、第1次基盤強化方針を策定しました。令和元年度～令和5年度までの方針となっています。社協会員は、個人会員は増えてましたが、企業・団体会員が減りました。配食サービスは食券制度から利用料の口座引き落としに変更し、利用者や家族から喜ばれています。係内の毎月1回の会議にも力を入れ、旧態依然として進められている業務を見直す場としました。

(1) 理事会、評議員会

平成31年度は理事会を6回、評議員会を3回開催しました。

①理事会

期日	出席	議 題
6月7日	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の再編と規程の制定 ・平成30年度事業報告 ・平成30年度法人会計決算 監査報告 ・評議員選任候補者の推薦 ・平成31年度定時評議員会の招集
6月26日	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・会長・副会長の選定
9月25日	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員専任候補者の専任
12月17日	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・くすの木作業所従たる事業所の閉鎖 ・平成31年度補正予算（第1号） ・第1次基盤強化方針の制定 ・平成31年度第2回評議員会の招集
12月25日	書面による決議	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人蒔田町社会福祉協議会就業規則の一部を改正する規則
3月19日	書面による決議	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度法人会計補正予算（第2号） ・令和2年度事業計画 ・平成31年度法人会計予算 ・規程類の制定、廃止、改正 ・事務局長の選任

②評議員会

期日	出席	議 題
6月26日	15名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度事業報告の件 ・平成30年度法人会計決算 監査報告の件 ・理事及び監事の選任の件
12月25日	17名	<ul style="list-style-type: none"> ・くすの木作業所従たる事業所の閉鎖 ・平成31年度補正予算（第1号） ・第1次基盤強化方針の制定
3月27日	書面による決議	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度法人会計補正予算（第2号） ・令和2年度事業計画 ・平成31年度法人会計予算 ・理事の選任

(2) 委員会活動

①地域福祉委員会

期日	出席	議 題
11月27日	4名	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次基盤強化方針について

②財政基盤強化委員会

期日	出席	議 題
6月11日	8名	<ul style="list-style-type: none"> ・社協会員について ・今後の社協会員企業訪問について

③社会福祉大会実行委員会

期日	出席	議 題
7月23日	3名	<ul style="list-style-type: none"> ・式典・表彰・発表・講演・時間配分について協議
9月9日	2名	<ul style="list-style-type: none"> ・開会の言葉・来賓者の確認・表彰・発表・講演会・年男 年女写真撮影・来賓誘導・物販・反省会等について協議

④小地域福祉活動検討委員会

期日		内 容
4月23日	8人	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金算出方法の確認について ・ふれあいいいききサロン及びミニサロンの定義について ・人数の報告方法について

10月8日	10人	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金の検証について ・ふれあいいいききサロン及びミニサロンの定義について
-------	-----	---

⑤くすの木作業所経営検討委員会

期日	出席	内 容
9月19日	5名	<ul style="list-style-type: none"> ・収支の状況 ・利用者の状況 ・元重参与業務報告とガイドラインの説明 ・今後について サービス管理者の養成、レストラン厨房機器の更新に関する行政の意向、行政の意向を受けて、レストラン事業の方向性、その他
11月18日	4名	<ul style="list-style-type: none"> ・元重参与報告 ・工程表について ・レストラン経営について

(3) 社協基盤強化方針の策定

地域の生活課題に対応できる社協である為に、基盤強化、事業効果の向上を図る取組の方針を策定しました。本計画の策定にあたっては、職員へのアンケート、係ごとの話し合い、職員ワークショップを実施しました。

推進期間	平成31年度～令和5年度（5年見直し）
強化内容	①組織基盤の強化 ②事業推進体制の強化 ③財政基盤と資金管理の強化

(4) 社協会員の拡大について

理事会と事務局による企業会員拡大プロジェクトとして、企業・団体会員の拡大に努めました。6班に分かれ、60社訪問し、社協事業の説明や理解協力を求めた結果、12社の賛同を得られました。賛同を得られた12社は、来年度の社協会員となる予定です。

	30年度		31年度		増減	
	口数	会費額	口数	会費額	口数	会費額
法人・団体等	83	830,000	76	760,000	△7	△70,000
個人	1,642	1,970,400	1,728	2,073,600	86	103,200
計		2,800,400		2,833,600		33,200

(5) 赤い羽根共同募金運動の推進

10月～12月の赤い羽根共同募金運動期間で募金運動を行い、239件の法人訪問と戸別募金・歳末たすけあい募金を各地区へ依頼しました。街頭募金は、サンリブ、ルミエール、トライアル、神幸祭で実施し、全小学校の小学生を対象にドラえもん募金箱を配布し、募金の協力を依頼しました。

	平成30年度	平成31年度
戸別募金	3,851,850円	3,791,800円
法人・団体・個人	1,414,771円	1,421,134円
街頭募金	48,934円	43,129円
募金箱（含学校募金）	175,666円	158,404円
その他の募金	227,413円	260,254円
歳末たすけあい	775,600円	824,258円

第7回赤い羽根共同募金チャリティカラオケ演芸会

日時	9月29日（日）	会場	中央公民館大ホール
出場者	109組	来場者	252名
募金額	125,304円 ※共同募金会へ		

(6) 社会福祉大会の開催

社会福祉の増進、地域福祉の充実、ボランティアの奨励、福祉教育の充実、共同募金・社協会員の推進、社協活動への理解と協力を図ることを目的に開催しました。

第8回苜田町社会福祉大会

開催日	11月12日（火）
場所	パンジープラザ 集団健診指導室
参加人数	約185名
内容	1部 表彰式／表彰：託児ボランティアくれよん・身体障害者福祉会・潮下敦子さん・本間和弓さん・片島小学校 2部 お宝発表会「上町さくらの会」 3部 講演「お隣さんは外国人ということ」 講師 かんだ国際交流親善大使チーム マクドナルド晶子 さん

(7) 配食サービス

配達員と事務員の業務を効率化するため、これまでの食券制度から口座引落としへと利用料の回収方法を変更しました。口座引落としへと変更して以来、配達時間が短縮され、利用者が多い日であっても時間内に配達が終わるようになりました。また、利用者や利用者の家族からも、食券紛失の心配や食券管理の煩雑さがなくなったと好評です。

サービス提供は、日曜日と年末年始以外毎日行っており、去年は豪雨や台風時も配達員の安全を考慮しながら実施しました。お弁当を手渡しすることで、利用者の安否確認も兼ねているため、自宅で骨折して動けなくなっていた方や亡くなられていた方の早期発見につながったケースもあります。また、去年に比べ、町の配食弁当とふれあい弁当ともに利用食数が増加しました。

	配食弁当（町委託）	ふれあい弁当（社協）	合計
平成 31 年度	10,662 食（登録 68 名）	6,175 食（登録 36 名）	16,837 食
平成 30 年度	10,390 食（登録 69 名）	5,710 食（登録 38 名）	16,100 食

(8) SOS 徘徊ネットワーク活動の推進

社協広報誌でメール協力員の募集を掲載し、地域に出向いた際にお声掛けをして協力者数の増加に取り組みました。社協事務所内では、年 1 回の模擬訓練に取り組み、徘徊者が出た場合にも効率よく検索が出来るよう備えています。

	SOS 登録者数	メール協力員数	発信（検索）回数
平成 31 年度	61 名	132 名	11 回
平成 30 年度	75 名	125 名	3 回

(9) 社協だより手をつなごうの発行

地域での支え合い情報や社協事業や相談事業の案内等を掲載しています。

発行部数	10,000 部
発行回数	毎月 1 回（5 月は大型連休のため発行なし、1・2 月は合併号）、 年 10 回発行

II 総務係（地域福祉担当） 事業報告

小地域福祉活動では、新たに本町区と八田山区が推進地区に加わり、支え合い会議の実施地区も 24 地区と前年度から 10 地区増加し、地域における見守りや支え合いの力が向上しています。また第 2 層つながり隊を小学校区ごとに設置し支援をしています。特に苅田小学校区つながり隊においては、買い物支援と居場所づくりについて協議しており、住民主体の地域づくりを推進しています。福祉教育では、今年度新たに、外国人への理解を深めるためのプログラムを実施し、学校と地域のつながりを強化しました。ボランティアセンターは、ボランティアの活動者不足を解消するために、広報活動に力を入れ、男性中心のボランティアグループ養成を目標にフォトボランティア養成講座を開講しました。

(1) 小地域福祉活動の推進

現在 36 地区で小地域福祉活動の推進が実施されており、700 名を超える推進委員や福祉委員が活動に参加し地域の福祉力向上に尽力しています。

今年度は、フレイル学習会を 16 地区で開催し、社会参加の大切さの理解を広めました。役員の高齢化や担い手不足の問題、ふれあいいいききサロンの参加者が増えない事やマンネリ化の問題もありその解消に重点を置き支援を進めました。

①推進地区の拡大

未実施地区へフレイル学習会などをきっかけに推進のアプローチを行いました。

アプローチをした地区数	5 地区
-------------	------

推進地区数は以下の通りです。() 内は新規推進地区数

	平成 31 年度	平成 30 年度
推進地区数	36 地区 (+2)	35 地区

②交流の促進による活動の活性化

ボランティア団体等にいいききサロンへの参加を促進しました。サロンの活動内容の相談に応じたり、情報提供にも努めました。また推進地区同士の交流も増え活性化につながりました。

サロンへの参加ボランティア数	6 団体
推進地区同士の交流数	8 回

③レクリエーション用具等備品の貸し出し

活動のマンネリ化を防ぐ為に、備品等の貸し出しをしました。

レクリエーション用具やビデオ等の貸し出し	35 回
----------------------	------

- ④推進委員・福祉委員へ活動の手引きと推進委員証・福祉委員証の配布
活動の目的や進め方への理解を深める事を目的に配布しました。

配布数	738
-----	-----

- ⑤小地域福祉活動推進地区会長会議の開催

活動情報の紹介や活動上の困りごと等の意見交換を行いました。

期 日	場 所	参加地区
7月5日	小波瀬CC	集、城南、近衛ヶ丘、桜ヶ丘、与原下、白石、二崎、緑ヶ丘、百合ヶ丘、新津、今古賀
7月12日	西部公民館	猪熊、片島、葛川、谷、法正寺、鋤崎、八田山
7月16日	北公民館	若久2、若久、松山、松原、西町、中町、上町、幸町、提、長畑、浜町、港、馬場

- ⑥社協だよりにおいて各地区の取り組み紹介

毎月3地区の活動を掲載し、活動の啓発や参考になるよう紹介しています。

		掲載地区					掲載地区		
4月	城南	百合ヶ丘	葛川	10月	若久2	白石	片島		
6月	西町	南原	八田山	11月	馬場	新津	法正寺		
7月	上町	桜ヶ丘	与原上	12月	幸町	二崎	谷		
8月	松原	緑ヶ丘	鋤崎	1.2月	全36地区※新年の挨拶を掲載				
9月	中町	百合ヶ丘	猪熊	3月	若久	小波瀬	片島		

(2) 一人暮らし高齢者等見守りネットワーク活動の推進

一人暮らし高齢者等で支援を必要とする人の顕在化や町内の見守り活動を推進する団体等の連携強化や見守り力の向上を目指しました。

- ① 支え合い会議の充実と個別支援会議の開催 (24地区で実施)

推進委員・福祉委員に加え、包括支援センターや民生委員・区長等が同席し、一人暮らし高齢者や地域の中の心配な方についての地域から孤立をしないよう、支援の在り方について話し合いました。

地区名	① 若久2 ②若久 ③松山 ④西町 ⑤長畑 ⑥馬場 ⑦南原 ⑧集 ⑨城南 ⑩尾倉 ⑪桜ヶ丘 ⑫与原下 ⑬白石 ⑭二崎 ⑮緑ヶ丘 ⑯百合ヶ丘 ⑰新津 ⑱今古賀 ⑲小波瀬 ⑳猪熊 ㉑片島 ㉒葛川 ㉓八田山 ㉔鋤崎
-----	---

②見守りネットワーク協議会

地域で見守り活動に取り組む団体と専門機関とで消費者被害の事例等を元に、情報共有の在り方や見守りの進め方について協議しました。

開催日	①9月11日 ②2月21日 (全2回)
参加団体及び機関	①苜田町防災地域振興課 ②苜田町地域福祉課 ③行橋警察署 ④苜田町老人クラブ ⑤地域包括支援センターかんだ ⑥地域包括支援センターおばせ ⑦地域包括支援センターしらかわ

③懇談会の開催

開催地区	① 若久2 ②若久 ③松山 ④松原 ⑤西町 ⑥中町 ⑦上町 ⑧提 ⑨長畑 ⑩浜町 ⑪港 ⑫馬場 ⑬南原 ⑭集 ⑮城南 ⑯尾倉 ⑰桜ヶ丘 ⑱与原下 ⑲白石 ⑳二崎 ㉑緑ヶ丘 ㉒百合ヶ丘 ㉓新津 ㉔今古賀 ㉕小波瀬 ㉖猪熊 ㉗片島 ㉘葛川 ㉙八田山 ㉚谷 ㉛鋤崎
------	---

④「こんなことやってま集」の配布

各地区の活動を掲載した「こんなことやってま集」を作成し配布しました。他地区の活動を参考することによって、地区の見守り活動の強化につなげました。

作成部数	1000部
------	-------

(3) 居場所づくりと買い物支援の取り組みの推進

苜田小学校区をモデルに、居場所づくりと買い物支援について話し合いを行っています。当初は空き家の活用を計画していましたが空き家での開催を断念し、若久公民館で実施することになりました。開催に当たって、苜田小学校区の行政区を対象にアンケート調査を行い、住民のニーズを把握しました。先進地区である北九州市小倉南区葛原校区の視察や苜田町区長連合会苜田部会への報告、協力していただけるスーパーASOとの打ち合わせ、保健所への販売品の確認、企画名「みんなが集う かんだにこここ北広場」の決定など開催に向けて動き出しています。

①アンケートの実施について

苜田小学校区の行政区11地区「買い物支援や居場所づくり」についてアンケート調査を実施し、2457世帯に対し、1400世帯回収（回収率57.0%）しました。約4人に1人が買い物に不便を感じており、不便に感じる理由としては、お店までの距離が遠いなどが上げられました。特に、雨窪区、若久区、若久2区、松原区、松山区、長畑区では、不便に感じている方が多いという調査結果が出ました。また、居場所づ

くりに関しては、健康体操や手芸、茶話会を望む声が多く、近くに気軽に集まれる場や多世代交流の場が欲しいという意見が上がりました。

②視察について

買い物支援の先進地区として、つながり隊メンバーと北九州市小倉南区葛原校区へ視察を行いました。

日時	開催場所	内容
7月27日	葛原市民センター	・葛原校区買い物支援「わいわい市場葛原」について※視察後、葛原校区役員との意見交換

③苅田町区長連合会苅田部会との連携について

つながり隊の説明やアンケート調査の結果、実施イメージなどの途中経過を報告し、今後の協力、相談などを依頼しました。

日時	開催場所	内容
10月23日	パンジープラザ	・苅田小学校区つながり隊の発足から現在までの途中経過報告 ・企画案などのイメージの共有 等

④ASOとの打ち合わせについて

買い物支援の販売品の提供をスーパーASOへ依頼し、つながり隊が販売することに協力していただきました。

日時	場所	内容
2月6日	北公民館	・開催日や内容、販売品についての確認 ・今後の流れについて

⑤京築保健福祉環境事務所へ販売品の確認

食品販売業の許可や臨時営業許可など、販売品によっては、申請が必要なものがあることから、京築保健福祉環境事務所へ販売品の確認を行いました。

日時	場所	内容
2月21日	京築保健福祉環境事務所	・買い物支援での販売品について、販売の可否の確認

(4) 地域福祉活動計画 地区福祉計画の推進

小学校区ごとの第2層つながり隊にて、地区福祉計画を推進しています。各小学校区でリーダーをはじめ、活動を主体的に推進していくコアメンバーが固まりました。

校区	コアメンバー	定例会等	取り組み内容
荻田小	15名程度	1回/月	・若久集会所にて令和2年度からの「買い物支援」開催に向け検討
馬場小	15名程度	1回/月	・小学校区の各区で情報交換 ・世代間交流を兼ねた避難所運営訓練開催予定
南原小	15名程度	1回/月	・校区内のサロンに参加し、虹の会の活動を紹介 ・南原小学校の登下校の見守りについて検討し、11月に通学路の点検を行った
与原小	15名程度	1回/2ヵ月	・世代間交流、誰もが通える居場所づくりを検討 ・誰もが気軽に参加できる体験型イベントを検討
片島小	15名程度	年4回開催	・PTA 主催「片島っ子まつり」をつながり隊と共催で開催し、昔の遊びや防災体験を実施した ・地区情報誌を2回発行
白川小	15名程度	年4回開催	・4月に公民館講座で防災講演会を開催し、つながり隊が避難所カフェを開催 ・認知症徘徊搜索模擬訓練（声掛け）実施

(5) 生活支援体制整備事業

小学校区ごとに第2層協議体（つながり隊）を設置しました。各小学校区で定期的に話し合いを行っており、住民の主体性も生まれつつあります。生活支援コーディネーターが活動しやすいよう、月に1回、ベース会議と年度途中から、生活支援コーディネーターミーティングを開催しました。荻田小学校区をモデルとした、居場所づくりと買い物支援は、当初、活用予定だった空き家での実施を断念し、若久公民館での実施を決定しました。

① 第1層協議体（つながり隊）の推進

開催日	場 所	人数	内 容
8月26日	三原文化会館 大ホール	66	<ul style="list-style-type: none"> ・主旨説明 ・これまでの経過とこれからの方向性について ・情報交換『各小学校区の活動状況』 荻田小校区 高村 保六 馬場小校区 坂本 厚子 南原小校区 板倉 孝志 与原小校区 大村 幸一 片島小校区 西本 竜二 白川小校区 入江 学 ・『地域ケア会議から見えた地域課題』 地域福祉課 上野 優子係長 ・『男性の居場所づくり』 コミュニティシンクタンク北九州 西村 健二 ・『オレンジフェスタ in かんだ』について
3月16日	※各小学校区の取り組み状況報告、意見交換を予定するが、新型コロナウイルス感染防止の為中止		

② 地域アセスメントの実施

31カ所の小地域福祉活動の懇談会に参加しアセスメントを行いました。地域自慢をしてもらう中で、地域の強みと弱みを見つけ出す機会としました。

③ お宝探し

地域の方々が意識せずに行っている支え合い活動を「お宝」と呼んでいます。地域づくりの第一歩は、地域のお宝を知ること、見つけ出すことから始まります。地域の方々が行っているお宝を育み、豊かな地域づくりへつなげています。

□お宝取材先

	お宝名		お宝名		お宝名
1	朝のラジオ体操（岡崎区）	6	ペタンク（長畑区）	11	すてきに火曜日サロン
2	さくら会（上町区）	7	朝のウォーキング	12	墨すり書道教室
3	豊かな暇つぶし	8	健康体操（西町区）	13	手芸で楽しむ会（馬場区）
4	朝のラジオ体操	9	見守り隊（港区）	14	ペタンク（馬場区）
5	グラウンドゴルフ（提区）	10	朝の見守り登校	15	殿川クリーンクラブ

□お宝発表会の開催

令和元年 11 月 12 日（火）社会福祉大会内で開催しました。

□お宝冊子の作成、配布

日常の交流の大切さの啓発として冊子を作成し配布しました。

冊子『お宝探して見つけた荏田町の支え合い Vol. 3』	1000部作成
------------------------------	---------

配布先	
お宝発表会にて	取材をさせて頂いた方々
荏田町老人クラブ連合会	小地域福祉活動を行っている地区
民生委員・児童委員	各主要公民館
小地域福祉活動	

(6) 福祉教育の推進

日頃見過ごしてしまう日常生活の問題に気付き、自分と他者のよりよい生活を考え、そのために必要な取組みを実践する力を養うこと目的に開催しました。

①地域福祉セミナー

「認知症になっても大丈夫～笑顔あふれる地域づくりを進めよう～」をテーマに地域福祉セミナーを開催しました。認知症になっても大丈夫な地域づくりには、どのようなことが必要かを学び、認知症に対する正しい理解が広がりました。

期日	場所	参加者	内容
9月7日	西日本工業大学 101 教室	154 名	講演会「認知症になっても大丈夫～笑顔あふれる地域づくりを進めよう～」 講師：老い支度普及センター 老い支度クリエイター 石黒秀喜さん

②災害に強い地域づくり講演会

福祉入門教室の中で、講演会を行いました。西部公民館、北公民館、小波瀬コミュニティセンターの3カ所で開催し、災害時の地区ごとの避難場所などを確認してもらい、防災に関する意識を高めてもらうことができました。地域の中で支え合っ
て災害に備えることの大切さを学んでもらい、普段からできる防災対策を意識する
きっかけづくりになりました。

実施日	講師	会場	参加者数
4月24日	一般社団法人 九州防災パートナーズ 代表理事 藤澤 健児氏	西部公民館	59 名
4月25日		北公民館	20 名
		小波瀬コミュニティセンター	37 名

③認知症サポーター養成講座

認知症になっても暮らしやすい地域を目指し、小地域福祉活動やボランティア団体、福祉教育推進校にて認知症サポーター養成講座を実施しました。

期日	受講者	参加者
7月19日	緑ヶ丘区小地域福祉活動	29
10月11日	白川小学校4年生	30
11月19日	互交会	10
11月26日	新津中学校1年生	141
12月6日	苅田中学校1年生	161

(7) 福祉教育推進校活動の推進

町内全校(小学校6校・中学校2校・高校1校)で福祉教育を実施しました。小学校では福祉教育サポートボランティアの方と交流をしながら、さまざまな体験学習を行いました。学校で福祉教育を実施することにより、障がい者や高齢者、外国人など色んな人の立場に立つてものごとを捉えたり考えたりする思想を育むことができました。

①町内の福祉施設との連携、社会資源の活用(重点目標)

キャラバンメイトとして在処よってけばあの職員に認知症サポーター養成講座の中で、生徒たちに認知症の方に対する正しい接し方と誤った対応の仕方を教えてもらいました。また、博愛苑の施設職員にも福祉教育サポートボランティアとしてアイマスク体験に参加してもらいました。

②学校と地域との繋がり強化(重点目標)

今年度は、学校と地域との繋がり強化のために、かんだ国際交流親善大使チームの方々と協力し、荻田町で暮らす外国人に対する理解を深め、中学校や高校で講演を行いました。また、福祉教育サポートボランティアとして体験学習の際に地域住民に参加してもらい、学校と地域との繋がり強化につなげました。

③学校での福祉体験学習内容

学校名	学年	人数	実施月	内容
荻田工業高校	全学年	479名	10月	・『外国人を交えた地域づくりについて考える』 講話/かんだ国際交流親善大使チーム
荻田中学校	1年	160名	12月	・認知症サポーター養成講座
新津中学校	1年	141名	11月	・認知症サポーター養成講座
新津中学校	3年	133名	7月	・『外国人と共に生きる多文化共生社会について学ぶ』 講話/かんだ国際交流親善大使チーム
荻田小学校	4年	106名	6月 9月	・視覚障がい者講話・アイマスク体験 ・車いす生活者講話・車いす体験 ・手話体験

馬場小学校	4年	64名	9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がい者講話・アイマスク体験 ・車いす生活者講話・車いす体験 ・点字体験・手話体験
南原小学校	4年	60名	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がい者講話・アイマスク体験 ・車いす生活者講話・車いす体験
与原小学校	4年	105名	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がい者講話・アイマスク体験 ・車いす生活者講話・車いす体験
片島小学校	4年 5年	8名 12名	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・点字体験 ・手話体験
白川小学校	4年	14名	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がい者講話・アイマスク体験 ・認知症キッズサポーター養成講座 ・手話体験

(8) ボランティアセンター活動の推進

ボランティアグループの活動が円滑に進むよう、活動支援に重点を置き、問題を把握するために積極的に関わりました。また、ボランティア活動者不足を解消するために養成講座の開催やボランティアセンターの情報提供に力を入れました。また、社協だより「手をつなごう」やホームページ、社協事務室横のボードにチラシを掲示し、ボランティアの募集や講座のお知らせなど、情報発信に心がけました。

①コーディネート件数

活動 依頼 別		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
託児	件数	13	17	36	37	27	50	41	46	33	25	14	5	344
	人数	34	30	66	74	50	112	81	90	64	50	26	10	687
個人	件数	16	14	14	16	11	16	14	14	14	14	15	0	158
	人数	25	21	22	23	17	24	19	23	21	22	22	0	239
施設	件数	8	9	9	8	8	10	9	10	10	8	8	0	97
	人数	48	53	49	48	48	58	53	58	60	48	48	0	571
団体	件数				1				1	1				3
	人数				1				1	5				7
小地 域	件数						1	1			1	1		4
	人数						1	1			10	10		22
学校	件数		2	1			1	2						6
	人数		12	8			8	12						40
計	件数	37	42	60	62	46	78	67	71	58	48	38	5	612
	人数	107	116	145	146	115	203	166	172	150	130	106	10	1566

②ボランティアグループの支援

	グループ名		グループ名
1	荻田町ボランティア連絡協議会	14	傾聴アイリス
2	ハンディキャブ (ボラ連)	15	かんだ健康隊
3	すみれ会 (ボラ連)	16	わすれな草の会
4	荻田朗読会 (ボラ連)	17	ハッピーハンド
5	荻田点訳会 (ボラ連)	18	一木会
6	かんだ手話の会 (ボラ連)	19	認知症予防グループはなみずき
7	スマイルクラブ (ボラ連)	20	お手玉の会し合わせ

8	手話サークル ひまわり	21	子育てママ支援隊「にじいろ」
9	缶・カンクラブ	22	傾聴ボランティア「ほほえみ」
10	たんぽぽ	23	つむぐ。
11	チーム愛	24	花サロン
12	傾聴ボランティア らびっと	25	ガイドの会
13	託児ボランティア くれよん	26	ふわリン

③ボランティアの養成

男性中心のボランティアグループの養成を目標にフォトボランティア養成講座を開講しました。グループの立ち上げには至りませんでした。今までにない関わり方としてライングループを作ることが出来ました。

講座名	期 日	場 所	受講者数	継続・登録
手話奉仕員養成講座	4月19日～3月13日 (全45回) ※新型コロナウイルス感染予防の為延期(2回)	パンジープラザ	8名	5名
セラピューティック・ケアによるボランティア養成講座	8月1日	パンジープラザ	5名	3名
フォトボランティア養成講座	11月1日、11月8日	パンジープラザ	18名	18名

④ボランティアフォローアップ

25年続いたボランティア連絡協議会が解散の意思を表明したことに伴い、関係者と数回の話合いを重ね、ボランティアフォローアップ研修でスムーズな移行につながるよう働きかけました。あいにく新型コロナウイルスの影響で研修が延期になり、未だ開催日時が決まっていない状況です。

期日	場所	参加者	内 容
3月9日	パンジープラザ	30名 (予定)	・「これからのボラ連のあり方の提案 ～地域づくりの担い手となるためにつながる事の大切さ～」 講師 福岡県立大学准教授 村山 浩 一 郎 氏 ※新型コロナウイルス感染予防の為延期

⑤ボランティア顕彰

第6回荊田町社会福祉大会でボランティア功労者や団体を表彰しました。今後も社会福祉大会でボランティアの功績を讃えていきます。

⑥夏休み子供ボランティア体験学習

期日	場所	参加者	内容
8月21日	パンジープラザ	11名	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ゲーム、外国人との交流 ・松末小学校、杷木復興支援ベース ・模造紙に取組みを紹介
8月22日	福岡県朝倉市		
8月23日	パンジープラザ		

やさしい日本語で防災無線～朝倉現状報告～
学んだ事を発信(役場課長・消防長・元警察官)
パンジープラザに模造紙を掲示

(9) 高齢者・障害者の閉じこもり防止

毎週水曜日(白川地区)と金曜日(苅田地区)に移動サロンとして活動を行い、近所にスーパーや商店街がなく、車両を保有していない世帯を対象に閉じこもりの防止に努めました。小地域推進地区の懇談会や包括支援センターへの情報提供、社協だよりへの掲載など、事業の周知も実施しています。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	15	18	12	17	11	12	8	16	16	11	7	0

(10) ハンディキャプ貸出事業

公共の交通機関が利用できない身体の不自由な方を対象に、病院等への送迎を実施する事業として、現在61名の方が登録されています。毎月定例会に参加し、心配な利用者の状況などの情報を共有しています。小地域推進地区の懇談会や広報誌において、事業の周知を図っています。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	8	7	6	6	5	8	9	5	7	6	8	0

(11) 子育て支援

毎月の外遊び(プレイパーク)の部屋申請や備品の貸出を行い、側面的な支援を行っています。また必要に応じて相談対応をし、若いお母さん達が活動しやすいよう他の団体に啓発を行っています。

項目	回数	参加者数	内容
子育てママ支援隊 「にじいろ」	11回	延べ70人	親子で外遊び(プレイパーク)他

(12) 介護家族支援元気回復事業「元気回復サロン」の実施

在宅で介護されている方を対象にリフレッシュを目的とした内容を考え、月に1回サロンを開催しております。また、困りごとを抱えている介護者に、介護を考える会「なの花」の役員が相談に応じ解決につながっています。サロンの様子や内容を広報誌に掲載し、事業の周知を図りました。

□開催状況

月日	場所	参加数	行事内容
4月 3日	向山公園	12名	花見
5月 15日	パンジープラザ	11名	認知症勉強会
6月 19日	パンジープラザ	11名	脳トレ (コミュニケーション麻雀)
7月 12日	築上町	11名	日帰りバスハイク
8月 21日	ミモザの会	12名	介護者の現状報告
9月 18日	パンジープラザ	11名	脳トレ (コミュニケーション麻雀)
10月 16日	パンジープラザ	18名	健康体操・セラピューティックケア
11月 19日	福智町	7名	日帰りバスハイク
12月 18日	パンジープラザ	13名	クリスマス会・ハーモニカ演奏
1月 28日	パンジープラザ	15名	新年の集い
2月 19日	パンジープラザ	9名	来年度計画について
3月			新型コロナウイルスの影響により中止

(13) 有償サービスの仕組みと居場所づくりの研究と実施

有償サービスおたすけ“虹の会”活動の推進を図り、視察研修を行いました。また、外部からの視察研修の受け入れも行いました。毎月の役員会にも参加し、利用者の状況やケース別活動報告を共有し、先進地区の事例の情報提供を行っています。活動内容を広報誌に掲載し、活動の啓発も行っています。

□視察研修・交流会

日時	場所	内容
7月 25日	三原文化会館	宗像市赤間西地区との交流会・講演会
12月 16日	みやこ町	みやこ町社協 ボランティア養成講座にて講演会
1月 24日	芦屋町	芦屋町「あしたの会」との交流会・意見交換会

(14) 障がい者団体連絡会の活動支援

障がい者団体連絡会の活動を支援するために積極的に定例会等に参加しました。

□定例会等への参加による支援状況

開催日	会議・行事名	内容
7月10日	連絡会①	年間活動計画づくり
9月4日	連絡会②	スポレク・要望書・懇談会
10月14日	障がい者スポーツ レクリエーション祭	障害者の社会参加促進や健康づくり
11月12日	啓発活動	福祉大会にて広宣物の配布
11月12日	懇談会	行政との懇談会
12月2日	啓発活動	人権講演会にて広宣物の配布

(15) 福祉団体の活動支援

必要に応じて、役員会や交流会に出席しています。今後の活動についての助言や交流会の際の内容検討、講師調整などの支援を行っています。

□福祉団体一覧

荻田町老人クラブ連合会	荻田町身体障害者福祉会
荻田町母子寡婦福祉会	荻田町少年補導員会
荻田町遺族会	荻田町手をつなぐ親の会
保護司会	介護を考える会 なの花
互交会	

Ⅲ あんしんセンター係 事業報告

日常生活自立支援事業を12月に県社協から完全移行しましたが事前説明を十分に行っていたので混乱もなくスムーズに手続きが出来ました。

法人後見事業では家庭裁判所から新規受任の相談もあり、今後は依頼に対して積極的に受任していきます。また、令和2年度から中核機関として、一般社団法人北九州成年後見センターが開設されるので、今まで社協が行っていた多職種連絡会と成年後見事業関係機関連絡会は今年度で終了しました。

生活福祉資金の貸付件数は昨年と比べて減っていますが、3月から新型コロナウイルス感染症の影響で休業や失業の方を対象の特例貸付が始まり問い合わせが増えている状況です。

(1) 日常生活自立支援事業の充実

関係機関からの相談で契約するケースが増えてきていることから事業の周知は進んできています。利用者は契約したことで安心した生活が送れるようになるので、精神的に安定した生活が送れています。

契 約 者 数						援 助 回 数	相 談・問 合 わ せ 件 数
	認知症	知的障害	精神障害	その他	合 計		
件 数	6	2	6	2	16	373	44
解 約 者 数							
	認知症	知的障害	精神障害	その他	合 計		
件 数	2	0			2		

(2) 成年後見制度の利用支援

包括支援センターや地域福祉課とも連携を取りながら、必要な人に対して成年後見制度が利用できるように支援しています。

①制度についての相談、勉強会の開催

期日	研修名	出席	内容
5月8日	成年後見制度 実務者研修	3名	・成年後見人候補者から審判確定まで ・後見業務について 講師 成年後見センターおれんじ

11月25日	成年後見研修会	30名	「これだけは知っておきたい相続法改正」 講師 ゆくはし総合法律事務所 弁護士 岡 直幸氏
--------	---------	-----	--

②法人後見の受任

12人の方を受任しています。今年度は初めて家庭裁判所からの受任依頼もあり、今後は積極的に受任していきます。

③成年後見等運営委員会の開催

第1回 8月28日・第2回 2月19日

出席者：弁護士、医師、地域福祉課長、社会福祉士

内容：後見受任の可否、報告、日常生活自立支援事業の契約、報告等

④多職種連絡会の開催

偶数月に開催 参加者平均人数 14人

出席者：弁護士、司法書士、社会福祉士、包括支援センター、社協職員

内容：参加事業所からの困難事例検討

⑤包括支援センター連絡会の開催

毎月 1回開催

出席者：各包括支援センター職員、あんしんセンター係

内容：事例検討、各機関の連携について

⑥成年後見事業関係機関連絡会の開催

2月7日

出席者：福岡家庭裁判所行橋支部、古賀弁護士、久篠司法書士、地域福祉課、包括支援センター、社協職員 計 17人出席

内容：家庭裁判所の現状、成年後見申立て等について協議

(3) エンディングプラン事業

エンディングプランにつなげるために講演会を開催し、終活の意識を高めました。

期日	研修名	出席	内容
10月30日	終活セミナー	24名	「終活」のすすめ ～終活が必要な理由教えます～ 講師 一般社団法人 終活相続支援協会 内藤 仁美 氏

(4) 障害者相談支援事業の充実

福祉サービスに繋げるだけでなく、利用者本人の生活全般についての支援ができるように関係機関との連携を取りながら情報共有を図っています。

① 適切な利用計画

サービス利用計画作成は年々増加していますが、復職したケース等もあり、利用者がステップアップできるような利用計画作成に努めています。

サービス利用計画作成	78件 (3月31日現在)
------------	---------------

② 菟田町障害者相談支援事業の受託

福祉サービスに繋がらない障害者の方の支援を行っています。また京都郡地域自立支援協議会や幹事会にも参加し各機関との連携も図っています。

□相談件数

	福祉サービス	医療・疾病	情緒安定	就労相談	その他	合計
件数	190	98	76	19	94	477

(5) 福祉に関する相談窓口の充実

項目	開設日	利用者数	相談援助件数
法律相談	12日	65人	65件
心配ごと相談	40日	16人	16件
身障心配ごと相談	11日	3人	3件
遺産・相続・多重債務相談	5日	8人	8件
終活相談	2日	4人	4件

(6) 生活福祉資金の貸付（県社協委託業務）

□生活福祉資金貸付状況（本会を介して県社協からの貸付実績）

種類	申請件数	申請金額	決定件数	決定金額
福祉資金	0件	0円	0件	0円
緊急小口資金	21件	1,473,000円	20件	1,473,000円
教育支援資金	3件	1,667,000円	3件	1,667,000円
計	24件	3,140,000円	24件	3,140,000円

(7) 生活困窮者への支援

若年単身者世帯や18歳以下の子供のいる世帯の相談が増えています。貸付対象にならない世帯もあり、支援が困難な世帯も増えてきています。生活困窮者自立支援事業所等とも連携を取りながら支援を行っていますが継続した支援を敬遠する傾向もあります。

□生活困窮者への支援実績（平成31年度）

相談世帯数	82世帯
相談回数	120回
食糧支援回数	27回

□相談世帯の内訳（全82世帯中）

18歳以下の子を含む世帯	19世帯
障害者・障害の可能性のある者を含む世帯	4世帯
65歳以上の高齢者を含む世帯	8世帯
疾病者を含む世帯	6世帯
その他の世帯（若年単身者等）	45世帯
合計	82世帯

(8) 社会福祉法人連絡会

幹事会を年3回行い、ふくおかライフレスキュー事業の事例報告等を行っています。またセブンイレブンからの物品受け入れについても協力してもらいました。

①幹事会の開催

内容	期日	法人出席者数	行政出席者数
総会	5月14日	11人	2名
第8回 幹事会	7月8日	7人	1名
第9回 幹事会	11月18日	7人	1名
第10回 幹事会	3月9日	9人	1名

②公益的な取組の推進

子ども食堂の支援を行い、2年度も支援を行っていきませんが、今後は継続的に支援を行なえるボランティアの養成を図っていきけるように支援していきます。

□子ども食堂の支援状況

日時	場所	出席
4月19日（金）17:00～20:00	荻田町中央公民館	2名

5月17日(金) 17:00~20:00	蒨田町中央公民館	2名
6月21日(金) 17:00~20:00	蒨田町中央公民館	2名
7月19日(金) 17:00~20:00	蒨田町中央公民館	2名
8月 日(金) 17:00~20:00	中止	
9月20日(金) 17:00~20:00	蒨田町中央公民館	2名
10月18日(金) 17:00~20:00	蒨田町中央公民館	2名
11月15日(金) 17:00~20:00	蒨田町中央公民館	2名
12月20日(金) 17:00~20:00	蒨田町中央公民館	2名
1月17日(金) 17:00~20:00	蒨田町中央公民館	2名
2月 日(金) 17:00~20:00	中止	
3月 日(金) 17:00~20:00	中止	

IV ケアプランサービス 事業報告

適正なケアプラン作成の為に、積極的に研修会に参加し、各関係機関との連携を行ってきました。今年度は主任介護支援専門員が新たに1名増えました。また、本会への利用ニーズに適切に対応できるよう介護支援専門員を1名増員しました。

(1) 多職種・各関係機関との連携の強化

年4回の地域ケア会議や事例検討会に積極的に参加し、地域担当職員や地域包括支援センター等多職種と連携を図り、地域課題の把握・社会資源の開発に向けた提案を行いました。

(2) 地域への広報活動・介護保険の理解促進

いきいきサロンへの参加を通じた地域住民への介護保険制度の理解促進、居宅介護支援事業所の役割の周知の機会はありませんでしたが、電話や窓口での相談対応を行い、周知に努めました。また、社協広報誌手をつなごうに、介護保険相談窓口であることを掲載し相談しやすい環境づくりに努めました。

(3) 特定事業所加算算定事業所としての役割の遂行

研修会に出席して自己研鑽に励み、また他事業所と共同による事例検討会を開催し資質向上に努めました。年度後半は新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、予定された研修が中止となりましたが、来年度の研修に参加し自己研鑽に努めて行きます。

また町内他事業所の主任介護支援専門員との連携を図り、地域の介護支援専門員の抱える課題・地域課題に対してバイザー的機能を強化できるよう苅田町介護支援連絡会主任介護支援専門員部会へ参加し、連絡会の企画運営にも携わりました。

令和元年10月からは、介護支援専門員を一名増員し、四名体制とし地域のニーズに対応できるよう体制を整備しました。

H31年度担当件数の推移

月	要支援	要介護	月	要支援	要介護
4月	1	100	10月	0	107
5月	1	100	11月	0	117
6月	1	102	12月	0	116
7月	1	103	1月	0	117
8月	0	104	2月	0	114
9月	0	102	3月	0	115

V 多機能型事業所くすの木作業所 事業報告

31年度は若干の赤字傾向となり、施設経営が厳しい状況が続いており、この課題を解決するため、くすの木作業所経営検討委員会を設置し、今後の対応を協議しました。

くすの木作業所経営検討委員会においては、8回の委員会の協議及び視察研修を踏まえ、現場での改革を進める人材を採用し、障害者自立支援の理念に関する職員への教育や業務のスキルアップの指導等を行い、また適正な職員配置と業務についての改善案等を協議しました。改革担当の参与から報告を受けて、改革案を提出しました。

くすの木作業所利用者の工賃アップを目指し、生産活動の核として、菓子製造販売「LAPAN」が開始から4年、レストラン「夢の木」は6年が経過しました。工賃アップに寄与している部分と課題となる部分、大きな夢と可能性を抱きながらも、現実までのハードルは低くありません。

(1) 利用者の状況

	平成 31 年度	平成 30 年度
年間延べ利用者数	4,172 人 (前年度比+355 名)	3,817 人

(2) 施設経営

- ・安定した健全施設経営を目標とし、収支の黒字化に努めてまいりました。収入に係る訓練等給付費の増額に努める為に、利用者の募集活動を中心に行った事により、1日の利用率が前年度75%だったものが5%増の80%となりました。
- ・特別支援学校の高等部と中等部から各2名ずつ実習生を受け入れました。
- ・相談支援事業所との連携も大切にしました。
- ・今年度の実績として、生活介護事業に2名が利用開始しました。2名は特別支援学校高等部を卒業し、利用契約を結びました。今後も、特別支援学校の進路担当教諭と連絡を大切するとともに、相談支援事業所との連携にも努め、利用率を上げてまいります。

(3) 生産活動 菓子製造販売事業

- ・毎月の売り上げ目標60万円としました。
- ・今年度、商品アドバイザー「里山商会」による、指導のもと、販売を展開した。指導内容は、ポップの作成、商品陳列法、販売履歴の管理法、パンフレットの作成、毎月の販売対策等を指導して頂きました。
- ・新商品として、クリスマスケーキ、バレンタインDAYとホワイトDAYの販売をしました。販売場所は、全部で12か所での販売をしました。イベント等の臨時販売を強化し売上増に繋がりました。

- ・毎月第1日曜日には苅田えきらく大市に出店しました。また、毎月、期間限定、季節のロールケーキを販売やエンゼルケーキ1000円・2000円・3000円パックの販売もしました。
- ・月の売り上げ目標を60万円と設定しましたが、毎月の売上平均は40万円であり、目標額の達成は厳しかったです。
その要因には、6月～9月の暑い時期は、特に販売が伸びなかったことがあり、今後は夏季の冷菓等の新商品の準備が必要です。また、臨時販売の回数を増やすことも大切です。

(4) 生産活動 レストラン事業

- ・工賃は、利用者に時給600円の工賃を支給しました。現在、1日3～4名の利用者がレストランにて従事しています。毎月、レストランメニュー会議を行い、先月の営業チェックと来月のプランを立てています。
- ・お昼のお弁当が徐々に伸びつつあります。1日平均25個の販売でした。予約弁当は不定期ではあるが、収入増に繋がりました。
- ・毎月の収支は、月ごとにより変化があり、赤字の月もありました。その要因には、人件費の比率が高い傾向があります。また、夏場の野菜の高騰が仕入値の金額が増加させました。
- ・お客様からの弁当予約がありましたが、施設の休館日や調理員の休日出勤配置などで、日曜日の予約弁当の対応が出来なく今後の課題となりました。

(5) 職員の人材育成・資質の向上の取組み

- ・きょうされん福岡支部職員学習交流会に参加
- ・県北ブロック職員学習会
- ・県社協主催研修会の参加 4回
- ・施設内部職員研修を実施 9回
- ・ワーキングチーム会議 5回
- ・管理職研修 2回
- ・職員会議を実施しました。会議は、行事の立案と要綱作成、打合せ。安全対策の協議。利用者のケース検討。各種会議の報告をしました。

VI 認知症対応型通所介護 在処よってけばあ 事業報告

利用者様により良い介護が提供できるよう職員各自、認知症の専門性を高めるため外部研修に参加、資質の向上を図り、自己研鑽に努めました。地域のいきいきサロンに利用者と共に参加することで、地域の方々が在処に立ち寄る機会が増え交流の輪ができてきました。認知症サポーター養成講座を通し在処の存在を知ってもらうことはできたが、困りごとの相談までにはいたっていないので、今後も啓発活動に努めていきます。現在は独居や老々介護の方々も増えてきています。今後も各関係機関と連携を図り在宅生活が継続できるように支援していきます。

(1) 利用状況報告

①利用者数

	平成 31 年度	平成 30 年度
年間延べ利用者数	2,195 人	1,810 人
月平均利用者数	183 人	151 人
1 日平均利用者数	7.1 人	5.9 人

②月別利用状況等

	要 支 援 1	要 支 援 2	要 介 護 1	要 介 護 2	要 介 護 3	要 介 護 4	要 介 護 5	延 利 用 者 数	保 険 外 利 用 者 数	実 日 数	利 用 者 数 一 日 平 均 の	宿 泊 利 用 者 日	登 録 者 数
4 月	4	32	74	53	0	0	6	169	4	26	6.5	0	18
5 月	4	39	67	57	0	0	7	174	3	27	6.4	0	19
6 月	4	37	66	56	0	0	8	171	3	25	6.8	0	19
7 月	4	40	62	55	0	0	6	167	4	27	6.1	0	18
8 月	3	39	82	57	0	0	6	187	4	27	6.9	3	19
9 月	3	37	88	63	0	0	6	197	4	25	7.9	4	20
10 月	4	23	103	48	15	0	7	200	6	27	7.4	5	20
11 月	4	25	109	48	16	0	4	206	9	26	7.9	4	20
12 月	6	23	109	38	15	0	8	199	9	25	8.0	2	21
1 月	8	23	97	36	29	0	6	199	6	24	8.3	1	21
2 月	8	20	75	31	32	0	6	172	7	25	6.9	1	20
3 月	4	14	68	25	27	7	9	154	7	26	5.9	0	18
計	56	352	1000	567	134	7	79	2195	66	310	7.1	20	233